

医心 伝心

脳卒中治療は時間が重要

富山県医師会理事 平野八州男

近年、脳梗塞の急性期治療は目覚ましい進歩を遂げているが、いまだ多くの患者は重度の後遺症を抱えたままであり、今後いかに軽減させるのかが大きな課題である。

発症から治療までの時間が重要であり主幹動脈閉塞があると、毎秒8.7時間、毎分3.1週、毎時3.6年、1回の発作で36年分の加療に相当する神経細胞が失われるとされるデータがある。t-PA 療養を発症早期に施行させることが血流再開通させ転帰改善を高める。

適応時間は以前までの発症3時間以内より4.5時間以内に延長され同療法例は増加している。又、t-PA 療法適応外と判断されていた睡眠発症例や目撃者のいない状況での発症時間が不明の症例でも画像検査を用いてt-PA 療法を開始する臨床試験が行われている。最近では、脳梗塞で失われてしまった神経ネットワーク機能を内在性の神経再生機構の促進や幹細胞移植治療を行うことで修復させる再生治療が注目を集めている。

脳卒中は日本人の死因の第4位で介護の原因の2割にあたり第1位を占めている。そのためには全国各地での適切な治療を受けられる仕組みづくりが必要である。少子高齢化、人口減少を見据えて効率的で質の高い医療提供体制を各地域で構築することが求められる。

厚生労働省は一昨年、脳卒中などの診療体制の在り方について報告書をまとめ患者の状態に適し

た治療が受けられるよう専門医医療を行う施設を機能分担化させネットワークを築るよう後押しする対策基本法の成立を目指してきた。昨年の12月10日「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」が成立し12月14日に公布された。基本法により市民啓発では不十分であった関心の低い国民層にも正しい情報を届けるため行政、保険者、学校教育と協力支援できる体制を作れると期待したい。昨年4月には、富山大学附属病院にて脳卒中の高度な治療を365日24時間体制で行う「包括的脳卒中センター」が開設され、富山県内でも最高の医療を提供できる体制強化を進めている。

富山県脳卒中情報システム事業では患者の発症や診療状態を把握し、発症予防や早期治療について対策計画し今後さらに回復期、維持期の診療実態に関しても情報内容を収集して各期の情報が得られるように再発予防や社会復帰までの対策計画評価に役立てるよう医療機関、県民にフィードバックしていく所存です。